

平成26年度 国立江田島青少年交流の家教育事業
体験活動ボランティアフォローアップセミナー実施報告書

【趣 旨】 教育事業等における実践の機会を通じて、子供たちの体験活動を支援する法人ボランティアが知識や技術を深め、法人ボランティアとしての資質や能力の向上を図る。

【主 催】 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立江田島青少年交流の家

【期 日】

第1回 平成26年 5月31日(土)～ 6月 1日(日) (1泊2日)

第2回 平成26年 8月 1日(金)～ 8月 3日(日) (2泊3日)

第3回 平成26年10月 4日(土)～10月 5日(日) (1泊2日)

第4回 平成26年12月13日(土)～12月14日(日) (1泊2日)

【会 場】 国立江田島青少年交流の家

【対 象】 国立青少年教育振興機構が規定する「法人ボランティア」の資格を有する者

【参加者数】 第1回 54人
 第2回 69人
 第3回 48人
 第4回 52人

延べ223人

【企画・運営のポイント】

- (1) 企画指導専門職が、参加者のニーズをしっかりと把握し、参加者が自主的に活動する時間を多く取り入れる。
- (2) 企画指導専門職と参加者とのミーティングの時間を確保し、互いに気づかない点を指摘し合うようにする。
- (3) 企画指導専門職が期間中、プログラムの流れや、運営について指導にあたり、きめ細かな研修を行い、参加者のスキルアップにつなげる。
- (4) 研修終了後、参加者が、法人ボランティアとして、実際に当交流の家の教育事業へ参加できる技能や資質を身につけるセミナーにする。

【活動の実際】

第1回

5月31日(土)	10:00	10:15	12:00	13:00	16:00	19:30	21:00	22:30
	受付	開講式	レクリエーション準備	昼食	野外炊事準備 レクリエーション指導	野外炊事・片付け	ミーティング	入浴・就寝
6月1日(日)	9:00	12:00	13:00	15:30				
	朝の食つどい 清掃	キャンプファイア練習	昼食	キャンプファイア準備物 作成・片付け	ふりかえり			

第2回

8月1日 (金)	10:00	12:00	13:00	16:00	19:30	20:30	22:30
	受付	レクリエーション準備	昼食	野外炊事準備 レクリエーション	野外炊事・片付け	ミーティング	入浴・就寝
8月2日 (土)	9:00	13:00	16:30	18:00	19:30	20:30	22:30
	朝食 つどい 清掃	グループワーク	昼食	キャンプファイアの運営について	タベのつどい 夕食	グループ ワーク	ミーティング 入浴・就寝
8月3日 (日)	9:00	12:00	13:00	15:30			
	朝食 つどい 清掃	レクリエーション指導	昼食	水泳の安全管理について	ふり かえり		

第3回

10月4日 (土)	10:00	12:00	13:00	17:00	19:00	20:30	22:30
	受付	オリエンテーリング の進め方指導	昼食	オリエンテーリング クラフト作り 野外炊事	タベのつどい 夕食	ミーティング	入浴・就寝
10月5日 (日)	9:00	12:00	13:00	15:30			
	朝食 つどい 清掃	レクリエーション指導	昼食	レクリエーション指導	ふり かえり		

第4回

12月13日 (土)	10:00	12:00	13:00	17:00	19:00	20:30	22:30
	受付	クラフト作り指導	昼食	オリエンテーリング クラフト作り 野外炊事	タベのつどい 夕食	グループ ワーク	入浴・就寝
12月14日 (日)	9:00	12:00	13:00	15:30			
	朝食 つどい 清掃	レクリエーション指導	昼食	レクリエーション指導	閉 講 式		



野外炊事の実習



野外炊事の実習



グループワーク



水泳の安全管理について



クラフト作り



オリエンテーリングの工夫

【成果】

- (1) 企画指導専門職が、プログラムの流れや、運営について指導にあたり、きめ細かな研修ができ、参加者のスキルアップにつながった。
- (2) 参加者が、フォローアップセミナーで学んだことを生かして、当交流の家の企画指導専門職の指導・助言のもと計4回、延べ11日間のキャンプを企画し、計3回、延べ7日間（4回のうち、1回は台風接近により中止）のキャンプを運営することにより、子供達の体験活動を指導するリーダーとしての資質や実践力を養うことができた。
- (3) 参加者が、法人ボランティアとして、実際に当交流の家の教育事業等に多く参加し活動した。

【今後の課題】

参加者のスキルアップはできたものの、実習等では予定されていた内容が、時間内に終了しない場面もあった。参加者が自主的に進めていく場面では、企画指導専門職は適宜、指導・助言をする必要がある。また、担当の企画指導専門職とボランティアコーディネーターが連携し、参加者が企画した内容が、より良くなるための指導・助言を参加者に対して行う必要がある。